

# 地質調査所創立90周年記念号

地質ニュース No. 220 昭和47年12月

地質調査所創立90周年を迎えて……………	小林 勇……………1
地質図幅事業の歴史と現状……………	河合正虎……………2
わが国および世界の海洋地質調査研究の動向①……………	水野篤行……………38
	井上英二……………38
	盛谷智之……………38
遠隔探知(リモート・センシング)技術の現状と展望……………	松野久也……………44
〈新しい宇宙技術利用の時代を迎えて〉	
国土の保全と災害対策……………	黒田和男……………60
〈災害の防除と地質〉	
わが国の金属鉱物資源の動向①……………	竹田英夫……………70
〈とくに海外依存状況について〉	
クリーン・エネルギーを求めて……………	徳永重元……………102
〈石炭調査研究の新しい道〉	
	鈴木尉元……………91
地質調査所における戦後の石油・天然ガス調査事業と今後の課題……………	影山邦夫……………91
	小玉喜三郎……………91
	島田忠夫……………91
	宮下美智夫……………91
物理探査の発展と今後の動向……………	陶山淳治……………110
最近におけるボーリング技術の研究課題……………	河内英幸……………120
	伊藤吉助……………120
	丹治耕吉……………120
	加藤完……………120
地球の年令をかぞえる……………	柴田賢……………132
発展途上国への技術協力の問題点……………	佐野俊……………152
包有物研究の展望……………	矢島淳吉……………178
年表 地質調査所90年史……………	今井功……………185

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

地質図は、語る  
この地質図は、最近出版されたばかりの20万分の1地質図幅「豊橋」(改訂版)の一部で、原因よりは若干縮小されている。中央構造線をはさんで、北西側には高温低圧型の領家変成帯(R<sub>1</sub>・R<sub>2</sub>)が、南東側には低温高圧型の三波川変成帯(S<sub>1</sub>・S<sub>2</sub>・S<sub>3</sub>)が相対峙し、変動時侵入岩としての麻塩マイロナイト(M)が、後生的運動による若干の変位をみせながらも、領家帯のフロントにふさおしい座を占めている。設楽の中新統(mn)や火山岩(R<sub>4</sub>・D<sub>1</sub>・A)の示すゆるい盆状構造が、急斜した基盤構造から、浮きぼりにされる。三波川帯と四万十帯(C<sub>1</sub>・C<sub>2</sub>)とを劃する“赤石裂線”は、東側ブロックの北進を暗示させ、その中ほどで断層面がほぼ水平になるあたりは、手のこんだ解釈を必要としよう。このような“中縮尺”の地質図は、いくつかの構造単元の配列と、それぞれの内部構成とを、同時に表現できるという点で、なかなか捨てがたいものである。  
(文 山田直利 写真 正井義郎)